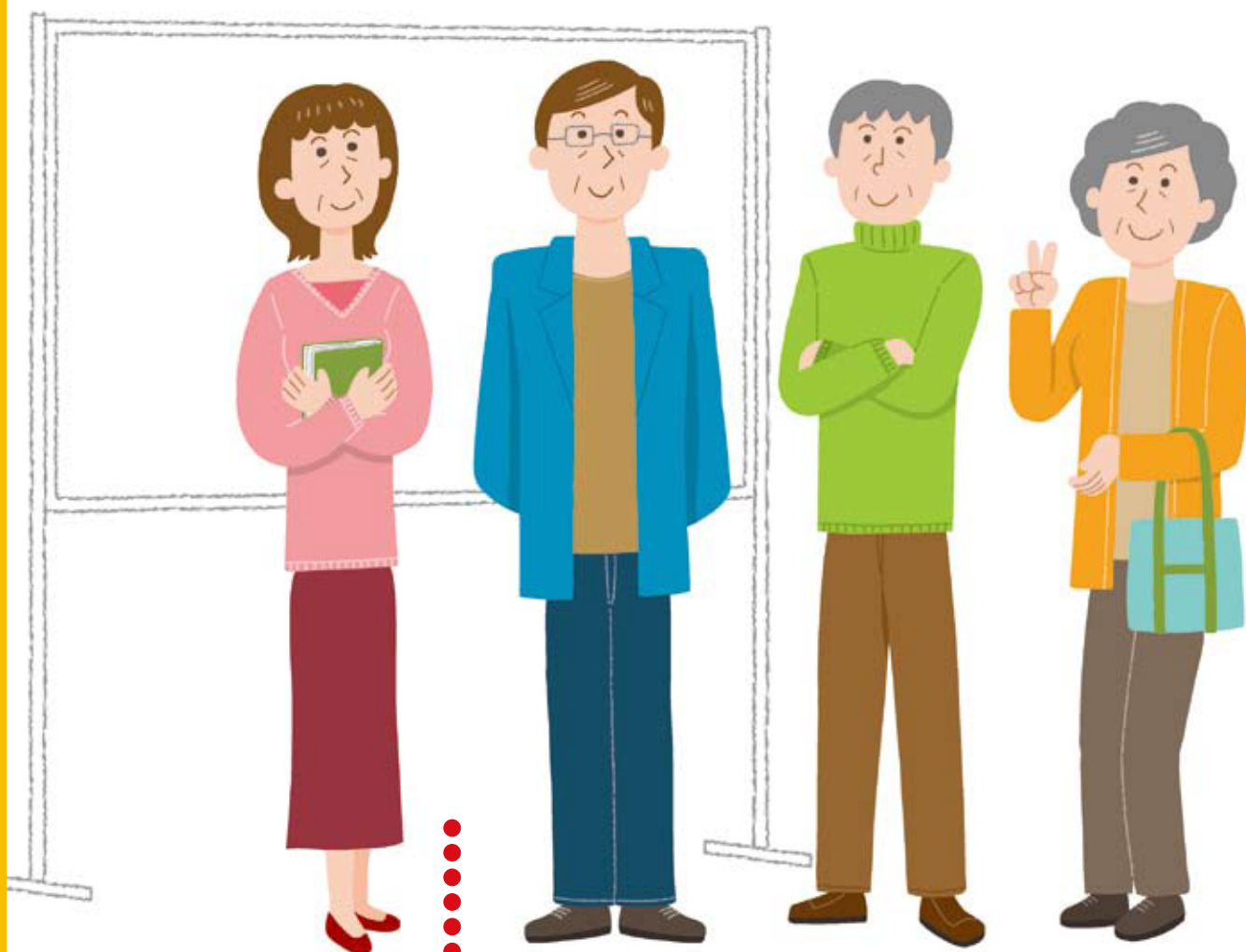


いきいき運転講座

進め方の手引き



- 「いきいき運転講座」は、仲間と一緒に話し合いながら
- 交通安全力を高めるトレーニングです。
- 専門知識がなくても、この教材を使うことで
- 手軽に講座を開催できます。

はじめに

家族や友達との交流を深めたい、好きな趣味をつづけたい、便利に暮らしたい――

「いきいき運転講座」は、生活の喜びをもっと広げたい高齢ドライバーのみなさんを応援する新しい交通安全プログラムです。

年を重ねるにつれて、体の機能が変化し、運転の仕方も変わってきますが、変化を補うことで、交通安全力を維持することができます。また、活動的な方、何でも相談できる親しい友達が何人もいる方ほど、安全に行動できることがわかっています。

この「いきいき運転講座」は、高齢者の交通安全力を高めることを目標に、これまでの交通安全プログラムにはない、新しい考え方でつくりました。

特色は、

- 高齢ドライバーの方々がリーダーや班長になって、自分たちの力で講座を進行する
- 話し合いを中心にして、いきいきと語り合い、学び合いながら、交通安全力を高める
- 脳機能を高めながら、交通安全を学ぶ
- 運転免許のない方も、自転車、歩行者や助手席の立場から参加することができる（講座名「自分の運転を振り返る」を除く）

ことです。

この「いきいき運転講座」は、約180人の高齢ドライバーの協力を得て開発しました。実際にプログラムを体験していただき効果を検証しています。

この進め方の手引きは、「いきいき運転講座」の内容、展開方法をわかりやすくまとめたものです。いつまでもお元気に、地域の方々と共にいきいき運転、いきいき生活を楽しんでいただくために、ご活用いただければ幸いです。

一般社団法人 日本自動車工業会



目次

「いきいき運転講座」の構成と効果	1
「いきいき運転講座」の内容	2
進める要領	3
開催までの準備	4
当日のプログラム	6
具体的な進め方	8

「いきいき運転講座」の構成

「交通安全トレーニング」と 「交通脳トレ」を組み合わせています

交通安全と脳のトレーニングを組み合わせると、学習効果が高まります。



「いきいき運転講座」の効果

「元気とやる気を高める効果」と 「気づきを促す効果」 この2つの効果が特徴です

効果1

交通安全力や
いきいき度を高め
元気とやる気を起こす効果

- 運転を改善できる
- 危険を察知する力が向上する
- 仲間を増やしたり、
いきいきした気分になる
- 脳機能が高まる

効果2





自分の運転の問題点に気づき、
解決する力をつける効果

- 運転に必要な
体の機能の変化を知って、
補う方法がわかる
- 運転の弱点を知って、
補う方法がわかる

「交通安全トレーニング」——みんなで話し合う

4種類あり、1から3へとレベルアップできる、合計12のトレーニングです。

「いきいき運転講座」の内容

交通安全トレーニング	こんなことが学べます
いきいき運転 いきいき生活 	レベル 1 いきいき生活と安全運転に関係があることを知りたい
	レベル 2 年齢を経るにつれて変わる体の機能や運転の仕方を知り、補う方法を考えたい
	レベル 3 運転を長く続ける方法や、運転をやめた後、どんな交通手段があるかを知りたい
危険予知 トレーニング 	レベル 1 交通場面でヒヤリとしてこわい思いをしなくてすむよう、見える危険と見えない危険について知りたい
	レベル 2 身近な交通場面で、次にどんな危険が起きるかを考え、対処法を知りたい
	レベル 3 交差点で次にどんな危険が起きるかを考え、対処法を知りたい
ヒヤリ体験を生かす 	レベル 1 運転中にヒヤリとした体験についてみんなで情報交換し、どうすればそれをなくせるかを考えたい
	レベル 2 住んでいる地域の地図に、車、歩行者、自転車の立場で、ヒヤリとした場所に印をつけ、危険な場所を確認したい
	レベル 3 自分達がつくったヒヤリ地図に、実際に事故が起きた場所を加え、地域全体の危険箇所を知りたい
自分の運転を振り返る 	レベル 1 信号のない交差点を通過する車、歩行者、自転車の動きをビデオで観察し、問題点と解決方法を考えたい
	レベル 2 他の車の車間距離の取り方、進路変更の仕方をビデオで観察し、問題点と解決方法を考えたい
	レベル 3 他の車の右折のタイミング、運転中の視線の動きを観察し、問題点と解決方法を考えたい



「交通脳トレ」——ご自宅で3カ月間の自己学習

効果を得るには、少なくとも3カ月間続けることが必要。やる気を高めるために、「いきいき運転講座」では、集まった仲間と一緒に取り組みます。それ以外のときはご自宅でトレーニングすることをおすすめします。

交通脳トレ



3か月

- 運転中、とっさの危険を察知する脳の機能を高めたい
- いきいき生活するための脳の基礎力を高めたい

「いきいき運転講座」を進める要領

準備

1. リーダー、班長の決定
2. 何に取り組むか、トレーニングとレベルを選ぶ
3. 会場さがし、参加者募集
4. 当日必要なものを用意 (教材コピー、資料探し)

やり方は P.4～5

1回目の講座当日 (★「いきいき運転・いきいき生活」レベル1を例に)

やり方は P.6～13

会場づくり

1 リーダーあいさつ



2 交通脳トレに取り組む



3 話し合い—いきいき運転・いきいき生活をテーマに



4 リーダーのまとめ

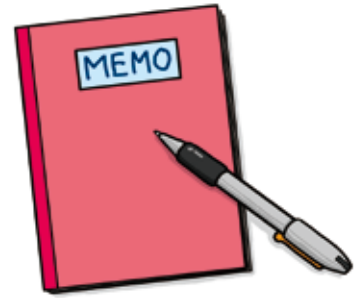


次回のお知らせ

あとかたづけ

1 中心になって進めるリーダーや班長をあらかじめ決めてください

- 「いきいき運転講座」は、高齢ドライバーのみなさんが自分たちの力で交通安全力を高める講座です。
- 参加人数が多いときは、5～8人の班をつくり、班長が中心になって進めます。あらかじめ班長を決め、班長の代表としてリーダーを選びます。



2 取り組むトレーニングとレベルを選びます

- 基本的なトレーニング項目の選び方は、右ページの図のように2種類あります。どちらの方法にするか、みなさんと相談して決めましょう。
- どちらの方法でも、「いきいき運転・いきいき生活」レベル1は、基本項目として必ず加えてください。
- トレーニングを組み合わせると効果が上がります。12項目から、まずは、3～4回分を選んで実施しましょう。

3 参加者募集、会場さがしをしましょう

- 地域の仲間、老人クラブの方々など、身近な方々を誘いましょう。「自分の運転を振り返る」以外は運転免許のない方も一緒に学習できます。
- 参加者募集のために案内状をつくると、訴える力が強くなります。「いきいき運転講座」リーダー用教材の各項目の最初のページに、トレーニングの目的、ねらい、時間割がついています。その情報と日時、会場を入れて案内状を用意しましょう。
- 会場は、市町村のコミュニティセンターなどの会議室が便利です。話し合いを中心に進めるので、声がまじりあわないように、班ごとに部屋を確保できるとよいでしょう。

「交通安全トレーニング」と「交通脳トレ」を組み合わせた
楽しい学習プログラム
いきいき運転講座 ご参加
ください

いつまでも安全に運転をつづけていただくために、高齢ドライバーのみなさんを応援する交通安全プログラムです。

- 話し合いを中心に、いきいきと語り合い、交通安全力を高めます
- 脳機能を高めながら交通安全を学習します
- 免許のない方も一緒に参加できます

[内容] 全4回

1回目 「いきいき運転・いきいき生活」
○月○日(○曜日) 00時～00時

2回目 「危険予知トレーニング」
○月○日(○曜日) 00時～00時

3回目 「ヒヤリ体験を生かす」
○月○日(○曜日) 00時～00時

4回目 「自分の運転を振り返る」
○月○日(○曜日) 00時～00時

●会場 ○○○○会議室
*開始時間の10分前までにおこしください

●費用 ○○○円(お茶付き)

●申し込み締切 ○月○日(○曜日)

●お問い合わせ先 電話000-000-0000

4 講座当日に必要なものを準備しましょう

- 「いきいき運転講座」リーダー用教材には、事前におくとよいこと、用意しておくといくもの一覧が、項目ごとに書いてあります。それにそって準備をします。

[主なもの]

- トレーニングの内容を理解するために、リーダーのための資料、受講者に配布する資料を読んでおく
 - 当日参加者に配る資料をコピーする
 - お茶など
- *トレーニングによって特別な準備が必要なものがありますので、リーダー用教材で確認してください。

それぞれの講座には異なる効果があります

下の表は、トレーニングごとにどんな効果があるかを示したものです。それぞれ効果が違います。目的に合わせて選びます。また、異なるトレーニングを組み合わせることで、さらに効果を高めることができます。

トレーニングの効果	やる気を起こす効果		自分の問題点に気づき、解決する力をつける効果			
	運転行動		安全意識		生活活性度	脳機能
	運転の仕方が改善する	運転の仕方の問題点に気づき解決法を考える	ルールやマナーを守る気持ちが高まる	運転や心身機能の変化を知り、補い方を考える	仲間ができていきいきする	脳の機能が高まり、学習効果上がる
いきいき運転・いきいき生活	○	○	○	○	○	
危険予知トレーニング	○			○	○	
ヒヤリ体験を生かす	○		○	○	○	
自分の運転を振り返る	○	○		○		
交通脳トレ						○

トレーニング項目の基本的な選び方

—— 3、4回分の項目を選び順次実施することがおすすめです
第1回は「いきいき運転・いきいき生活」レベル1から始めます

選び方1

4つのトレーニングで同じレベルの項目と「交通脳トレ」を組み合わせる

★例 レベル1だけ、それが終了したら次はレベル2だけとレベルをあわせる

トレーニング	項目		
いきいき運転・いきいき生活	レベル1	レベル2	レベル3
危険予知トレーニング	レベル1	レベル2	レベル3
ヒヤリ体験を生かす	レベル1	レベル2	レベル3
自分の運転を振り返る	レベル1	レベル2	レベル3
+			
交通脳トレ	3ヵ月		

選び方2

1つのトレーニングでレベル1～3と「交通脳トレ」を組み合わせる

★例1 「いきいき運転・いきいき生活」のレベル1、2、3を行う
★例2 「いきいき運転・いきいき生活」のレベル1と「ヒヤリ体験を生かす」のレベル1、2、3を行う

トレーニング	項目		
いきいき運転・いきいき生活	レベル1	レベル2	レベル3
危険予知トレーニング	レベル1	レベル2	レベル3
ヒヤリ体験を生かす	レベル1	レベル2	レベル3
自分の運転を振り返る	レベル1	レベル2	レベル3
+			
交通脳トレ	3ヵ月		

リーダー用教材の「ワークシート」や「台本」を使って講座を進めましょう

「いきいき運転講座」は、高齢ドライバーの方々が、自分たちの力で交通安全力を高めるプログラムです。班（5～8人）ごとに、班長が「進行役」になって進めます。

専門知識がなくても、どなたでもリーダーや班長になって講座が開けるように、「いきいき運転講座」のリーダー用教材には、進行の仕方、読み上げればすぐに使えるあいさつや説明の台本がついています。安心して、講座を進めていただくことができます。

進め方のポイント

1回2時間、気軽に始めてください

約2時間を目安につくられていますが、講座によっては3時間を超えるものもあります。時間等の制約がある場合は、2回に分けて実施してください。

「台本」を使うと進行がスムーズに

あいさつ、説明、まとめなど、進行役としてまとめた話をする場面は緊張するものです。リーダー用教材には、重要な場面での話し方の例があり、読み上げるだけでスムーズに進行ができます。実際に教材を使って講座を開催した高齢ドライバーのみなさんからは、台本を使うと安心して進められるという感想をいただきました。

「ワークシート」で話し合いを盛り上げます

「いきいき運転講座」の核になるのが、参加者のみなさんの話し合いです。テーマになる内容が書かれた「ワークシート」を中心に進めます。

班長の役割は、参加者1人ひとりに発言をもとめ、話を引き出すこと。教え込むのではなく、みなさんの意見を引き出し、解決法を見つけることが、話し合いの目的です。

運転免許のない方も、講座に参加できます

この講座は、講座名「自分の運転を振り返る」を除き、自転車や歩行者、助手席の立場の方も参加できます。いろいろな立場の方々がひとつのテーマで話し合うのは、高齢者の交通安全にとってきわめて有益です。

講座の流れ

準備

1. あいさつ
2. 交通脳トレ
3. 講座（話し合い）
4. まとめ

あとかたづけ



「いきいき運転講座」リーダー用教材は、4つの内容で構成しています。

1. 今日の集まり・早わかり (リーダー、班長用)



講座ごとの目的、効果、時間割、用意するものが1目でわかる資料です。

2. ワークシート (参加者配布用)



問題に答えながら話し合いを進めます。人数分をコピーして配ります。

3. 今日、覚えてほしいこと (参加者配布用)



勉強したことをまとめたページ。コピーして「まとめ」の場面で配ります。

4. 今日、話し合いを進めるための台本 (リーダー、班長用)



講座の流れ、使う資料、講座のイメージを伝えるページです。

講座をスムーズに進めるための台本です。「話し方の例」をそのまま読み上げるだけで、あいさつや説明を的確な表現で行うことができます。

講座をどんな風に進めるのか、雰囲気をつかんでいただくために、写真をたくさん入れています。読んだだけではわからない会場や参加者の様子を感じ取っていただけます。

進め方のポイントをわかりやすく解説しています。

準備とあとかたづけ

- 会場設営は、参加者全員で行います。話し合いがしやすいように、机は基本的に口の字型に並べましょう。「ヒヤリ体験を生かす」のように、大きな地図を使って作業するときは、机は作業台になるような並べ方にしてください。
- 教材として参加者に配布する資料のコピーなどをひとまとめにしておきます。お茶を用意しておくと思われます。
- 終わったら、次回の予定を知らせ、あとかたづけを忘れずにしましょう。自宅で行う「交通脳トレ」のコピーも必要枚数渡しておきましょう。



講座の運営

1 あいさつ

- 講座の目的を参加者に理解していただくとスムーズに進みます。
- 各項目の「今日、話し合いを進めるための台本」の、「リーダーあいさつ」の話し方の例を読み上げます。目的、ねらいが書いてあります。
- 参加者の関心をひきつけるために、テーマに沿った内容で、ご自分の体験談などを加えたり、参加者に質問したりするとよいでしょう。




2 交通脳トレ

- 冊子「交通脳トレ3ヵ月」から、1日分(2ページ)の問題を行います。冊子には60日分(土・日を除く)の問題が入っています。リーダーが問題を選び、人数分をコピーし、配ってください。
 - 脳の機能を高めるためには、やさしい問題を、少なくとも3ヵ月間続けることが必要です。「問題がやさしすぎる」という声がよく聞かれますが、脳機能を高めるには、やさしいことと継続が大切なことをお伝えください。
 - 正確に速く課題を終えることがポイントです。問題が終わるまでの時間を計ります。
- *「交通脳トレ」の詳しいやり方は、「交通脳トレ3ヵ月」をごらんください。




講座の進行には台本を活用しましょう

読み上げて使う、リーダーのあいさつ例

話し方の例	このまま読みあげるだけで講座を進めることができます	ポイント
 <p>リーダー</p> <p>●今日は、みなさんに一時停止標識<small>いちじていしひょうしき</small>はあるが信号のない交差点を通るドライバーの運転の様子や、自転車や歩行者の様子を写したビデオを見ていただき、その人の行動で何が問題か、問題をなくすにはどうしたらいいのか、同じ場面でみなさんはいつもどんな行動をしているのかを話し合い、考えていただきます。</p> <p>●「人の振り見てわが振り直せ」という言葉があります。私は子どものとき親からよくいわれたのですが、交通場面でも同じことがいえるのだそうです。他の人の行動を見て問題点について考え、意見をいうことで、自分の行動の問題点にも気づきます。今日のトレーニングはそこをねらっています。ぜひ積極的にご発言ください。</p> <p>●これから班ごとに班長さんや私が進行役になって話し合っていきます。各班で出た内容を後ほど班長さんから発表していただきますので、班長さんにはまとめをお願いします。</p>		<p>★準備の必要上、初めて実施するときは事前に班長を決めておきますが、次回からは自薦、他薦で班長を決めるのもよいでしょう。</p> <p>★参加者のみなさんに、トレーニングの目的、内容を理解してもらいます。</p>

読み上げて使う、交通脳トレの説明例

 <p>班長</p> <p>●最初のトレーニングは「交通脳トレ」です。この問題は3ヵ月分あるのですが、今日はそのうちの1日分(2枚)をやっていただきます。</p> <p>1枚目の問題では、安全運転に大切な、運転中にとっさに危険を察知する能力を支える、脳のトレーニングを行います。</p> <p>2枚目の問題では、簡単な計算問題と小説などの一部を音読していただき、脳を活性化します。2枚1組の問題を少なくとも3ヵ月間続けて行くと、効果が出てきます。</p> <p>●2人1組になり、問題にかかった時間を腕時計(秒針付き)で計ります。1枚目の問題から始めます。「スタート」の合図をしたら、時間を計ってください。では、スタートします。(2枚目の問題も同様に行う)</p>	<p>★お互いのことを知ると話がスムーズに進みます。</p> <p>★まず、「交通脳トレ」から始め、脳の働きを高めます。</p> <p>★開発者は、脳のトレーニングで知られる東北大学の川島隆太教授です。</p> <p>★時間の計り方を練習してから始めましょう。</p>
--	--

リーダーとして

講座に参加して下さった高齢ドライバーのみなさんの

声

「いきいき運転・いきいき生活」	台本通り進行して参加者の会話が進んだことが安心につながりました。
「危険予知トレーニング」	事前にリーダー用教材を読んで頭に入れておきました。当日は教材を見なくてもうまく進めることができました。
「ヒヤリ体験を生かす」	リーダー用教材にあいさつや説明の仕方のセリフがあって便利ですね。進行もスムーズにきました。
「自分の運転を振り返る」	参加者全員に発言してもらおうのが大事ですね。いろいろな意見が聞けて勉強になりました。

3 話し合い

「ワークシート」を使って どんどん意見を出してもらいましょう

- 講座は、話し合いを中心に進めます。「ワークシート」(コピーして配布)の問いに対して、参加者1人ずつが記入した後、意見を発表したり、他の人の意見を聞くという形で進めます。
- 参加者は自分の意見をあらかじめワークシートに書いた答えを使いながら、発表します。話し合いの中でいろいろなことに気づき、自分たちで答えを見つけ出していくことが大切です。
- 参加者は運転経験豊富な方ばかりです。豊かな経験から学んできたことを、互いに情報交換することから学習が始まります。



リーダーと班長は、進行役、聞き役に徹しましょう

- リーダー、班長というと、いろいろ教えないといけないと思いがちです。
- この講座では、教え込むのではなく、参加者みんなが、テーマについて話し合い、解決策を見つけていく、というやり方で進めます。
- 参加者1人ずつに、丁寧に問いを投げかけ、考えを聞くこと。たとえ同じ答えが出てもかまいません。話してもらうことを一番重要と考えて、講座を進行させてください。
- また、後で班のまとめを発表するときのため、誰がどんなことを話したのか、班長は簡単にメモしておきます。
- 班長の役割は、進行役に徹して、参加者全員の意見を引き出すことにあります。1人ひとり順番に指名して、話をしていただけるように仕向ける、問題を読むときも、参加者を指定して読んでもらう、ここが一番のポイントです。



話し合いは、「ワークシート」を中心に進めます

1つひとつの問いが、話し合いのテーマになります。

10 自分の運転を振り返る レベル 1

ワークシート 運転の自己評価 信号機のない交差点の通過

お名前 _____

問1 運転の自己評価
 あなたは写真左の四輪車に乗って、一時停止標識と停止線のある横い道から、2車線道路に出ようとしています。(下の平面図参照)
 こういふ交差点であなたはきちんと止まって、安全を確認していますか？
 100点満点で、あてはまる点数に○をつけてください。



私の運転は	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100点
通過してしまおう	いつも止まらず、よく見ずに通過する	少しは止まらず、よく見ずに通過する	たまに止まらず、よく見ずに通過することもある	よく見ようとする	だいたい止まらず、よく見ようとする	よく見ようとする	だいたい止まらず、よく見ようとする	よく見ようとする	だいたい止まらず、よく見ようとする	よく見ようとする	いつも止まらず、よく見ずに通過する

問2 確認しましょう／一時停止標識と停止線のある信号機のない交差点の安全な通過方法
 どのようにすれば安全に通過できるでしょうか？

.....

.....

.....

問3 ビデオを見る 停止線で止まった車の数を確認しましょう。

問4 ビデオを見た後の感想 ビデオを見てどんな感想を持たれましたか？

.....

120 目的外の複製を禁ず

問題を班長が読み上げたり、意欲を増すために参加者に読んでもらいます。そのあと、班長は、参加者1人ひとりに順番に、自分の意見を話してもらいます。

班長はあとで意見をまとめるために、誰がどんな答えをしたか書きとめておきましょう。

受講された高齢ドライバーのみなさんの声

- 話し合いながら進めるのはいいですね。他の人の話を聞くことで、お互いに気づきがあります。
- 予期せぬ危険についてみなさんの経験を聞き、とても勉強になりました。
- 話し合う中で互いに仲良くなって、交通安全に大切な譲り合いの気持ちができますね。

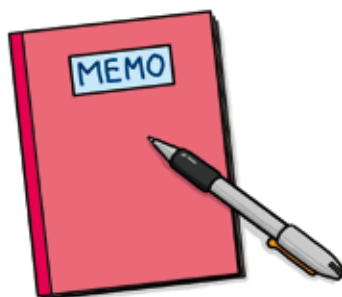
4 まとめ

あいさつ例を使って、 講座をしっかりとめくりましょう

- 講座の最後に、参加者のみなさんは、今日のまとめを期待するものです。
- 台本には、講座へのリーダーとしての感想をまとめたあいさつ文を入れてあります。このまま読んでお使いいただけます。


まとめにも、持ち帰り資料にもなる 「今日、覚えてほしいこと」

- 講座で学んだことを確認できる資料をほしいと思っている方が多数おられます。
「いきいき運転講座」は、交通安全や脳科学の専門家グループの知恵を結集して作ったものです。専門家が、講座ごとの要点をまとめた資料「今日、覚えてほしいこと」を用意しました。
- 班長が読み上げたり、また、参加意識を高めるために、受講者に読んでいただくとよいでしょう。
- 時間のないときには、持ち帰り資料として、帰ってから学んだことを確認していただけます。
- 難しそうなお知らせなども入っています。これまでの経験では、話の根拠を知りたいという方がどこの会場にもいらっしゃいました。データはそのときのためのものです。
- 講座は3、4回を基本に行うのが望ましいので（5ページのトレーニング項目の選び方を参照して、回数区切りの区切りを決めます）、できれば次回講座のテーマと日時の約束をして解散します。



まとめのあいさつも台本を使えば安心です

読み上げて使う、
リーダーのまとめ例



●お疲れさまでした
今日はビデオで、他のドライバーの車間距離のとり方、
進路変更の仕方を見ながら、ご自分の運転を振り返り、
安全な車間距離、進路変更について考えていただきま
した。いかがでしたか？

●ドライバーの多くは、自分は安全な行動をとっていると考えてるもの
です。しかし、考えていることと実際の行動にはズレがあるもので
す。
車間距離については、ビデオに映っていた車の約8割が、車間距離
が短く、危険な運転をしていました。私たちも、無意識に車間距離
をつめて走っているかもしれませんね。意識して、「車間時間2秒」
をとる癖をつけていただきたいと思います。
そのようにつねに意識することによって、追突事故を確実に減らす
ことができます。

●「今日、覚えてほしいこと」をお配りします。今日のまとめが書いて
ありますので、○○さん、読んでいただけますか？ つづけて△
△さんは2つ目の項目を読んでください。(※)

●いつまでも元気に安全に車を楽しめるように、今日の講座を思い出
して、ときどきご自分の運転を振り返ってみてください。

★参加者はトレーニングの後、今日のまとめを期待してい
ます。リーダーの方は「今日、覚えてほしいこと」を配り、
ポイントをまとめて伝えま
しょう。

★感想の中で、具体的な参加
者のお名前などをあげなが
らお話しし、リーダーとし
ての感想をつけ加えていた
だと、より励ましになり
ます。

★「今日、覚えてほしいこと」
の読みあげは、参加意識を
高めるために、複数の方に
読んでもらいましょう。

※時間がなければ「ここでは
読みあげませんが、お帰りに
なってからお読みいただ
けると幸いです」とつけ加
えてください。

持ち帰り資料にもなる資料「今日、覚えてほしいこと」


今日、覚えてほしいこと

**「出会い頭事故」をなくすと、
交通事故は大幅に減ります**

みなさんは、「出会い頭事故」をご存知ですか？
昇った方向から走ってきた車同士（自転車も含みます）
が衝突する事故のことで、70歳以上の高齢ドライバーにも
とも多い事故の形（約30%）です。この出会い頭事故を減
らすだけで、交通事故の約3分の1を減らすことができます。
よく起きているのは、ビデオで観察したような信号機のない
交差点です。こういう交差点は危なくないように見えます
が、車同士が互いに「交差点から車がくるとは思わなかつ
た」「相手は止まると思った」などの理由で、安全確認を
しなかつたり、一時停止をしないために起きています。

※第1回講座で、事例を紹介したとき、最も原因をついた原因をいいます。第2
回は原因が異なる場合、結果が異なる場合があります。

**図1 高齢ドライバー（70歳以上）
の交通事故の形**



出会い頭事故 30%
追突事故 20%
横断歩道 15%
右折事故 10%
左折事故 10%
歩道横断 10%
その他 6%

高齢ドライバー（第1回講座参加者）6万5,000名
（出）交通事故総合分析センター 2008年

自分の運転を振り返る
レベル1

高齢ドライバーは、自分の運転を実際より高く評価

出会い頭事故を防ぐために大事なのは、止まって、安全
確認をすることです。ところが、それが意外にできていない
のです。

高齢ドライバーのみなさんを対象に、ある実験をしまし
た。一時停止標識と停止線のある交差点をどのように通過
するかを聞き、その後実際に車に乗っていただき、通過方
法を観察しました。

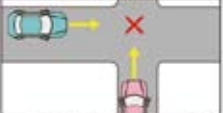
約80%の方が「停止線で停止し、安全確認してから徐々
に進む」と答えました。しかし、実際に車に乗ったとき、
停止線で止まって安全確認した方は約15%でした。

**一時停止標識のある交差点では、
きちんと止まって安全確認をしましょう**

上記の実験に参加された高齢ドライバーの方のように、み
なさんも一時停止標識のある信号機のない交差点で、自分
では止まっているつもりでも、実際には止まっていなくても
なりません。あらためてご自分の運転を振り返ってみてください。
一時停止標識があるときは、停止線の直前で（停止線
がないときは、交差点の直前で）一時停止しましょう。
一時停止標識のある信号機のない交差点では、“意識し
て”「きちんと止まって、安全確認」を実行してください。

レベル2

**図2 信号機のない交差点での
出会い頭事故の相手**



自動車と自転車同士の衝突 約40%
自動車と自転車の衝突 約37%
自転車と自転車の衝突 約17%
全11万5,400件
（出）交通事故総合分析センター 2008年

125



よいコミュニケーションができることは、 長生きする上でも、 交通安全にとっても 大事なことです

鈴木春男

自由学園最高学部長、千葉大学名誉教授
㈱日本自動車工業会 高齢者交通安全
教育推進委員会委員長

私もそうなのですが、高齢になるとたくさんのことと同時にいたり、考えたりすることが不得手になります。従って、悩みごとを抱えながら運転したりすると、危険を知らせる大事な情報を見落としてしまい、事故になるということもしばしばあります。親しい仲間、何でも話し合える仲間を持っている人がいつまでもお元気で、安全性も高いというのは、仮に悩みごとがあってもそれを解消する場を持っているからでしょう。仲間づくりは交通安全にとってもとても大事なことです。この講座は仲間づくりの上でもとても有効です。

「いきいき運転講座」の教材

講座を進めるために4つの教材を用意しています

「いきいき運転講座」

——進め方の手引き



講座の進め方をわかりやすく説明した資料です。

A4・16 ページ

「いきいき運転講座」

リーダー用資料 (受講者配布資料つき)



12回の講座を開催するためのリーダー用教材です。読み上げるだけで講座をうまく進行できる台本がっています。A4・182 ページ

「交通脳トレ3ヵ月」



運転に必要な脳機能と脳の基礎力を高める教材です。効果を高めるために3ヵ月分の問題を収録。A4・136 ページ

ビデオ「いきいき運転講座」

開催マニュアル

(ビデオ「自分の運転を振り返る」、教材PDF入り)



講座の開催方法やポイントをビデオでわかりやすく解説。DVD・12分30秒

監修 高齢者交通安全教育推進委員会
発行 一般社団法人 日本自動車工業会
〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-30 日本自動車会館
<http://www.jama.or.jp>